

ジェロントロジ

gerontology

横浜国立大学
安藤研究室

ジェロントロジー（老年学）とは、
高齢者の生活にかかわる問題を解明し、
より良い高齢社会をデザインする科学です。
安藤研究室では、社会老年学、高齢者心理学、
人と動物の関係学を中心に
研究をしています。



何歳からが高齢者..

「高齢者」の定義再考

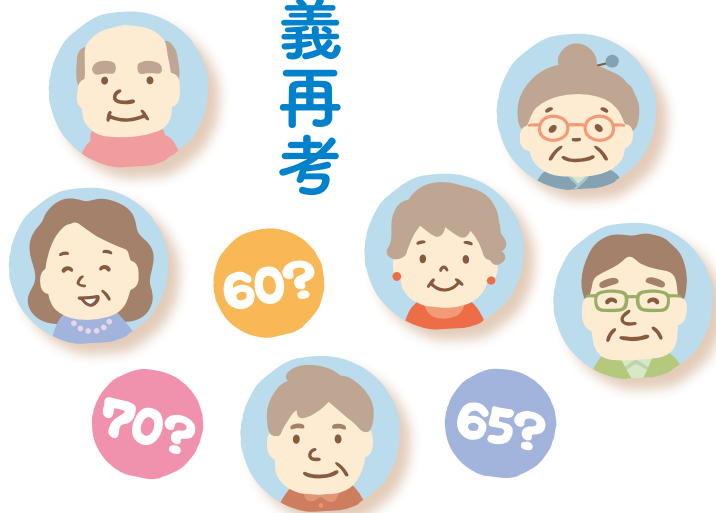
横浜国立大学・教授
安藤孝敏
あんどう たかとし

●急速な人口の高齢化

人口の高齢化は現在の日本社会を特徴づけるキーワードのひとつです。少子化と組み合わせると「少子高齢化」と表現されることも多く、最近では、人口減少も付け加えられて「人口減少・少子高齢化」と危機感をもって語られています。「高齢者が数でも比率でも少ない社会」から「高齢者が数でも比率でも多い社会」への変化の過程で、さまざまな問題や課題が出現します。しかし、長寿と生活の質の向上という人類の多年の夢を実現した結果が今日の高齢社会であり、人口の高齢化という社会変動を肯定的にとらえることも必要でしょう。

●「高齢者」の定義は？

今の大学生が高齢者となる近未来の2060年には高齢化率が約40%と予測されています¹。また、高齢者の中でも75歳以上の後期高齢者が65歳〜74歳の前期高齢者よりも多くなると指摘されています。まさに、急速に人口が高齢化し、超高齢社会といえる状況が予測されているわけですが、これは現在の「高齢者」の定義がそのままであればということなのです。実は「高齢者」とされる年齢の定義はさまざまです。日本では、国民年金の支給開始年齢である65歳以上が高齢者と考えられています²。法律的には必ずしも65歳以上ではありません。たとえば、道



路交通法では、高齢者運転標識（高齢者マーク）をつけて自動車を運転するよう求められる（努力義務）のは70歳以上の者です。国際機関をみると、世界保健機関（WHO）は65歳以上ですが、国連では60歳以上が「高齢者」と定義されています。

●「高齢者」の定義再考

これからの高齢者とこれまでの高齢者では、健康度や社会経済的な条件などさまざまな点で大きく異なっているはずなので、「高齢者」の定義を日本社会の状況に照らして考え直すことが必要です。すでにこのような動きが見えられており、日本老年学会では「高齢者」の定義見直しが議論されています。また、70歳以上を高齢者と考えるというように、日本人の意識も徐々に変化しています²。近い将来、財政的な観点から年金支給開始年齢の引き上げも検討されており、これに合わせて「高齢者」の定義も変更される可能性があります。急速な人口高齢化の波を日本社会が受容するためには、高齢者の心身の特徴を科学的に評価・判断した上で、「高齢者」の定義再考が急務であると思います。

●1 内閣府（2016）『平成28年版 高齢社会白書』

●2 内閣府（2015）『平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査結果』

※『新聞研究』2016年5月号（一般社団法人日本新聞協会）より転載、一部加筆修正

改めて考えてみる 新しい介護保険制度 について

仙台白百合女子大学・
人間学部心理福祉学科・講師

松崎吉之助
まつしきよすけ



●改正された介護保険制度

平成27年度から新しい介護保険制度がスタートしました。新しい制度では比較的軽度とされる「要支援1・2」の人のデイサービス（通所介護）、訪問ヘルパー（訪問介護）が保険給付から切り離され、市町村の事業に移行するという内容も含まれていました。そのため今回の見直しを「利用者の一部切り捨て」と捉えた人も多かったと思います。今回はこの見直しの意味について2つのキーワードをもとに改めて考えてみたいと思います。

●「繋がり」について

一つ目のキーワードは「繋がり」です。介護保険制度では特にデイサービスや訪問ヘルパーの人気があります。これらのサービスは在宅介護の強い味方です。しかし、これらのサービスを利用することで見落とされていた点がありました。そ

定を受けていない人が利用できるようになりまし

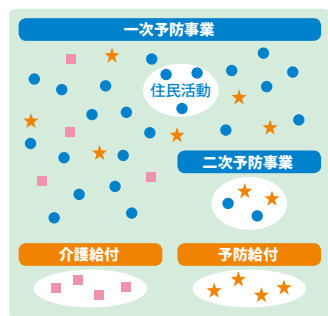
先ほどの例でいえば、体調を悪くしても、馴染みの人がいるサロンに継続して通うことができるようになります。もちろん、サロンをバックアップする仕組みも必要になりますので、同時にそのための事業も始まりました。このように今回の改正では「繋がり」を制度が断ち切らないようにするための工夫が盛り込まれています。

●「役割」について

今回の見直しにはもう一つ大きな意味があります。それは、地域のサロンや支え合い活動に多くの高齢者に参加してもらうことです。地域での活動に参加し、「役割」をもつことは参加する人の健康や介護予防にも繋がります。これまでの「介護予防」は専門家の指導を受け、トレーニング等に取り組むことが中心でした。しかし何か「役割」をもつということは教室に通う以上に心身の健康にとって大きな意味を持ちます。

新しい介護保険制度は「繋がり」をできるだけ断ち切らないこと、そして多くの人の地域活動の参加を促すことで、お互いが支え合う地域をつくることを目指していることがわかります。この新しい取り組みが形になるには時間が必要ですが、また「高齢者は支えられる存在」「サービスはプロに」という私たちのひとりひとりの意識も変えていくことも大切です。

●従来の介護予防では、状態ごとに事業が組み立てられており、地域住民同士で支え合う地域力を醸成するようなアプローチが不十分であった。



●未参加者は多数であるが、比較的元気な高齢者を中心に住民主体の小規模な活動（体操教室やサロンなどの居場所）が徐々に形成される。



●住民主体の活動が増加。地域住民同士で支え合う地域力が育まれ、年齢や心身の状況等によらず、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現

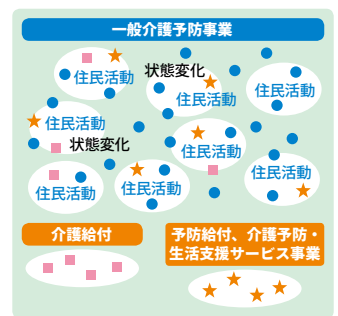


図1 高齢者の状態の変化に支援を合わせる体制

●一般高齢者 ★虚弱高齢者 ■要介護者

1 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2015)『介護予防・日常生活支援総合事業への移行のためのポイント解説』
2 厚生労働省(2015)『介護予防・日常生活支援総合事業ガイドライン』
3 岸玲子(2009)『地域におけるサポート・ネットワークが要介護状態を予防する』『介護予防—日本と北欧の戦略』笹谷・岸・太田編 光生館

『マルタのことづけ』

映画を通じて終活とこれからの生き方を考えるこのコーナー。今回は『マルタのことづけ』です。

舞台はメキシコ。家族も友人もない孤独な生活を送る若きクラウディア（ヒメナ・アヤラ）と、4人の子どものシングルマザーでありながらHIVを発症し余命わずかなマルタ（リサ・オーウェン）。クラウディアは、虫垂炎でかつぎこまれた病院で、同室となったマルタと出会います。そこから、世代の異なる2人と、そしてマルタの子どもたちとの縁が紡がれていきます。

子どもたちそれぞれが役割を分担しながら、マルタの面倒をみる日常。そこには、確かな愛情とともに、介護生活に息苦しさをつのらせる姿もまたありました。そこにたまたま現れたのがクラウディア。彼女は家族の雑事を手伝うようになり――

■家族の力、他人の力

家族たちは、日に日に濃さを増すマルタの死の影に、おそれと悲しみを抱いています。何かの拍子にそれぞれがこぼす苦しみに居合わせるクラウディア。家族には言えないそれぞれの思いを、彼女は静かに受け止めます。

死への恐怖と介護の負担とで積み重なった壁。いつのま



第3回

『マルタのことづけ』

横浜国立大学大学院
環境情報学部・博士課程後期

木村由香

きむら・ゆか

協力：尾上正幸
(株)東京葬祭 取締役、
終活・エンディングノートアドバイザー／
終活映画ナビゲーター



『マルタのことづけ』
発売・販売元：ポニーキャニオン
価格：DVD ¥3,800(本体) + 税
©2013 - INSTITUTO MEXICANO DE CINEMATOGRAFIA FONDO PARA LA PRODUCCION CINEMATOGRAFICA DE CALIDAD - JAQUECA FILMS, S.A. DE C.V. GOOD LAP PRODUCTION - CANIBAL NETWORKS, S.A. DE C.V. MEXICO

にかクラウディアは、その壁に、少しだけ、風穴を開けていました。それができたのは、孤独を知るクラウディアだから。そして、家族のように近いけれど「他人」のクラウディアだからかもしれない。病院などで家族の輪から取り残される彼女の姿が、劇中ではしばしば描かれます。でも、だからこそ言えること、聞けることがあるのです。

いよいよ死期が近くなってきた頃、マルタは「旅行に出かけよう」と提案します。たつての願い、ですがもちろん意見は分かれます。そこでマルタは聞くのです。「クラウディアはどう思う?」

■終末期の過ごし方

どんなふうに終末期を過ごしたいか。マルタはそこで旅を選びました。劇中にはありませんが、背後には医師とのやり取りなどもあったでしょう。

尊厳死や胃ろうなど、近年日本では議論されています。もしも終末期について何かしらの希望があるのなら、家族や友

人と話し合っておくことが大切。そして、特に医療や介護の方針については、きちんと文字にして残しておくことをおすすめします。

■さまざまつながり

シングルマザーのマルタ、孤独な身の上のクラウディア。家族の形は今やさまざままで、これからも多様性は増すばかりです。高齢社会と呼ばれる現代では、独居の方々も増えていきます。けれど、人それぞれ異なるかたちであっても、たとえひとりであったとしても、多様なつながりを作り上げることが、きっとわたしたちにはできるはず。そんなこれからの希望を垣間見せてくれる映画です。

●1 『マルタのことづけ』(2013年 ビターズ・エンド配給)

終活用語の基礎知識

【リビング・ウィル】

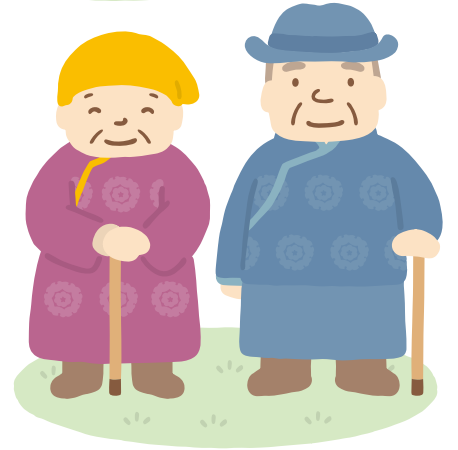
終末期についての医療方針を中心とした希望を残す文書。法的拘束力はありませんが、文字として残すことの力は大きいものです。自作でもかまいませんし、たとえば、尊厳死協会の「尊厳死宣言書」、終末期を考える市民の会の「終末期宣言書」などがあります。尊厳死宣言書は、尊厳死の希望を明確に提示する形式。終末期宣言書は、尊厳死や治療方針について、選択肢から自分の希望に合ったものを選び示す形式です。



モンゴルの高齢社会

横浜国立大学大学院
環境情報学部・博士課程前期

ハルタルフー・アリウンジャルガル



●モンゴルにおける人口高齢化

世界銀行の2016年の統計では、モンゴルにおける65歳以上の人口の割合は4.0%¹でした。高齢化率はまだ低く見えますが、モンゴルの法律に基づいた統計をみると違った数字も見られます。モンゴルでは「高齢者社会保障法」により、60歳以上の男性、55歳以上の女性が「高齢者」と定義されています。この法律に基づくと、高齢化率は8.0%²ということになります。2013年に開催された「高齢者に対する社会保障政策」会議において、担当大臣は「過去10年間の人口構成の変化をみると、全人口は16.1%の増加であったのに対し、高齢者人口は21.9%の増加であった」と言及したことから、高齢者人口が増えていることがわかります。国連の世界人口高齢化に関するレポートでは、2010年には6.4%だった60歳以上の人口は、2030年には11.9%になると推測され、急速な人口高齢化が予想されています。

●健康寿命からみた高齢者の健康状態

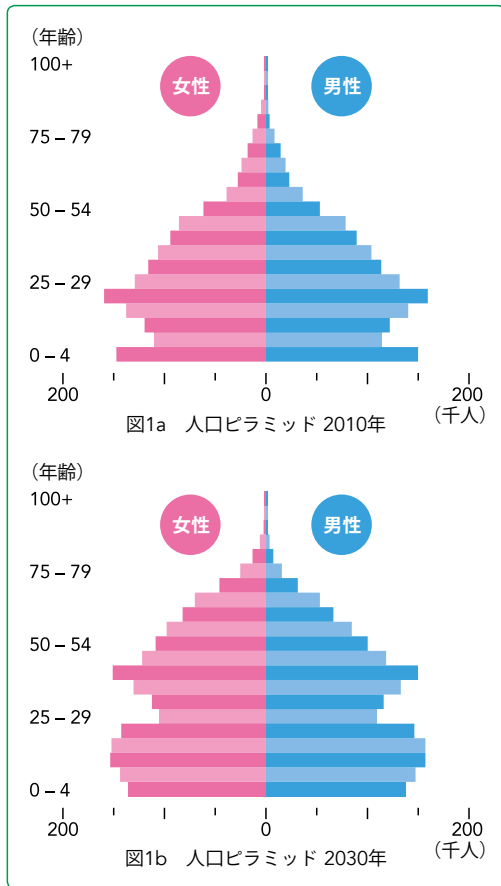
健康寿命とは世界保健機関(WHO)が提唱した概念であり、日常的・継続的な医療・介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のことを表しています。2000年の健康寿命は56.7歳でしたが、2015年には62.1歳ま

で伸び、女性が65.7歳、男性が58.8歳になりました⁴。この健康寿命と平均寿命の差は、2000年と比べると、女性が6.6歳から7.5歳、男性が5.6歳から5.9歳と拡大していることが分かります。この差は高齢者が健康上の問題で日常生活が制限されていることを示しているため、その差を縮めることが課題であると考えられます。

●高齢化に備えた国の政策

2012年から2016年にかけて、モンゴル政府は政治的目標として「健康的なモンゴル人」を提唱し、高齢化が進むと予測される社会に向けた戦略や政策を多く打ち出し始めました。高齢者の学習、就労、健康支援、介護サービスの拡大、医療や介護の担い手の育成を考慮した政策が目立ちます。今後も日本をはじめとする先進国の事例から学び、人口の高齢化に挑戦していくことが必要でしょう。

- 1 World Bank, "Population ages 65 and above", 2016 <http://data.worldbank.org/indicator/SP.POP65.UR.TO.ZS>
- 2 モンゴル統計局『モンゴル統計年鑑』2016 UN Population Division, "World Population Ageing", New York, 2015
- 3 WHO, "Global Health Observatory data repository", 2016 <http://apps.who.int/gho/data/node.main.HALE?lang=en>



ジェロントロジー No. 03

2016年10月6日発行



編集・発行：

横浜国立大学 安藤研究室
「ジェロントロジー」編集部
〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2
教育人間科学部 第3研究棟 710号室

tel & fax: 045-339-3270

e-mail: andolab.ynu@outlook.jp

homepage: <http://www.ando-lab.ynu.ac.jp/>